

令和3年度第6回伊予市行政評価委員会 会議録

日時：令和3年9月15日（水）18時30分～19時25分

場所：伊予市庁舎4階大会議室

出席者：妹尾克敏委員長、西田和真副委員長、倉澤生雄委員、下柳裕子委員、重岡真美委員、木本敦委員

事務局：未来づくり戦略室（西山・岡井・曾我部）

傍聴者：なし

1 開会

会議の成立を確認した。

2 議事

（1）第5回会議録の確認

第5回委員会では、長寿介護課所管の「(介保)一般介護予防事業」及び子育て支援課所管の「放課後児童健全育成事業」の2つの事業を審議した。その後、事務事業評価の改善に向けた協議を行った。

会議録については、各委員において発言内容等に誤りがないか確認を行った後、伊予市ホームページへ掲載する。

（2）外部評価結果の確認

（3）本委員会に対する提案、意見等

（4）次回の委員会日程

（5）その他

3 閉会

(2) 外部評価の結果

(事務局)

事前に配布した「外部評価結果(案)」をご覧いただきたい。前回委員会までに、外部評価を行った15件の事務事業の概略、そして、各委員の主な発言を要約し、記載している。本日確認いただいた後、体裁を整え、市長への答申としたい。

外部評価結果の確認の進め方は、委員会各回で審議した事業(2から5事業)毎で区切って、そのまとまりで確認及び発言いただく形としたいがよろしいか。

〔「賛成」と呼ぶ者あり〕

それでは、各回のまとまりで説明する。

〔No.1 情報化推進事業からNo.4 消防団施設事業までの4事業を読み上げる。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No.5 中山地域事務所管理事業からNo.8 教員住宅管理運営事業までの4事業を読み上げる。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

〔続いて、No.9 道路補助災害復旧事業からNo.13 都市再生整備計画事業までの5事業を読み上げる。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔誤字の指摘あり。追加意見なし。〕

〔続いて、No.14(介保)一般介護予防事業及びNo.15 放課後児童健全育成事業の2事業を読み上げる。〕

ここまでで、お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

〔指摘、追加意見なし。〕

本日の確認資料について、御指摘の点は修正を施し、改めて提示する。その際、お気づきの点があれば、事務局までお知らせいただきたい。以上で確認を

終える。

(3) 外部評価の結果

(事務局)

今年度の委員会は、第8期、任期2年の1年目である。この1年をとおしての意見・感想でもよいので、各委員から発言いただきたい。

(委員)

事務事業評価の資料を読み取るのが難しく、他の委員の発言を聞いて、やっと内容等を飲み込むことができるという状況であった。参加してみて、気づかされるが多々あり、非常に勉強になった。

(委員)

今年度は選定事業が少なく、1回の審議会で諮る事業が多い時で5事業までであった。数が少なかったため、資料をしっかりと読み込むことができたのはよかった。各回の審議では、事業数は少ないものの各委員から意見が多く出て、活発な審議ができたと感じている。

昨年度の「はじめに」の最後から2番目の段落に、「低評価で委員会に諮られ、肯定的な意見がほとんど出ない事業や委員会では廃止と判断した事業が最終判断で継続となること、これまでも多々あった」という記載がある。本委員会で廃止すべきと繰り返し伝えてきたことが、今年度、唐川コミュニティセンター管理運営事業で実を結んだ。長い時間がかかったが、廃止決定に向けた流れができたのは、多かれ少なかれ本委員会の意見が一助となったはずである。

また、第5回委員会における事務事業評価の改善に向けた協議の中でも意見があったが、現行の評価シートを継続して使った場合でも、成果指標や活動指標を設定した根拠や理由付けを明示できるように工夫すると、数値に対する意図を読み取りやすくなり、より良い事務事業評価ができるようになると思う。来年度の審議では、そのような工夫をしてくれることを期待する。

(委員)

委員会で諮る事業が決まると、各事業を市のホームページで確認するようにしている。最近は、期待した情報にアクセスしやすくなったと思うが、依然として該当の情報に届きにくい状態は残っている。ホームページには担当者の工夫を感じるが、市民が情報を得るのはまだまだ難しい状況があるのだろう。

伊予市の行政評価は、毎年多大な労力をかけて実施している。市民に行政がどういうことをやっているのかと関心を持ってもらい、中身を確認してもらえ

るような仕掛けづくりが必要である。行政が抱える課題等は、行政だけでは解決できにくくなりつつある。市民の参画と協働が必要である。

市民は税金がうまく使われているのかということに興味をもっている。しかし、市民にこれだけ多くの事業ひとつひとつに興味関心を持ってもらうのは難しい。行政評価が市民を巻き込んでいくきっかけになるように、ホームページ上での見せ方を検討してもらいたい。

(委員)

事業の選定について言及する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策の関係で事業費が膨らんでいるものが多かった。この点から考えると、新型コロナウイルス感染症対策に関する交付金等の使い道を検討した方がよかったのではないか。既存事業に付け加えるような予算計上の事業が多かったため、予算の使い方や妥当性を十分に見ることができていたかという点は反省したい。

昨年度の「はじめに」にもあるが、少しずつ資料も説明も分かりやすくなっている。第5回委員会における事務事業評価の改善に向けた協議の中で出ていた問題意識にもあったが、事業評価をする側は当たり前のように思って実施しているが、それを市民に分かりやすくどう伝えていくかの視点を持ち続けることは非常に重要である。引き続き、丁寧な説明に努めてもらいたい。

行政評価についてホームページで公開しても、傍聴は数人の市議会議員だけで、ページ閲覧者もほとんどいない残念な状況である。市民公募委員がいつも話されるのが、委員会に来て、話を聞いて、市がこんなことをやっているということが分かり、感心したということ。市民は行政に関心がないわけではない。発信側の見せ方・届け方に問題があるのだろう。例えば、事務事業評価の要約版を作成する等、工夫の余地があると思う。

(委員)

各委員の意見を聞いて初めて理解できることが多く、まず慣れることに時間が必要であった。適切な意見を言えたかという点については反省が残っている。

委員会に参加して、外部評価のまとめ等に自分の意見が掲載されているのを見ると、一市民として意見や発言に責任を持つということを感じることができ、委員になってよかったと実感している。自分にとっても大きな収穫であった。

評価シートは、委員会に参加して担当課の説明を受けても、最初は分からないことが多かった。補助シートや補足資料等で親切な説明を心がけているのは伝わってきたが、例えば目に見えて分かるようにグラフを使う等の見せ方の工

夫が必要だと思う。市民に興味をもってもらうためのアプローチを考えていかないと、行政評価自体が評価されないだろう。毎年同じように、漫然とやっているよりも、いかに分かりやすく伝えるかを追求しないといけない。丁寧な発信を続けていれば、興味をもった市民が市政に参加するという好循環が生まれるかもしれない。

(委員長)

伊予市における行政評価が、市民の観点からみて伝わりやすいものになっていないと定着しない。市民の後ろ盾のないものになってしまう。

行政評価委員会に諮られるから、評価シートを作成しないといけないというやらされ感が見え隠れするものは、当初に比べて減ってきた。そういう意味では、年々洗練されてきている。引き続き、市民公募委員の皆さんが遠慮せずに、偽らざるところを披瀝してもらえれば、いかに担当部局が市民に分かりにくい仕事を続けているかということが炙り出されるだろう。本年度の委員会で諮られた事業では、至るところでそれを感じるがあった。この点については、謙虚に反省して、「先ず隗より始めよ*」ということで基本的な姿勢に立ち戻ってもらいたい。

委員各位から評価結果の見せ方について言及があった。市民側からすると見せられ方というべきか。私は、県内20市町のホームページをよく見るが、伊予市は上から数えて早い方で洗練されていると考えている。情報過多状態の自治体や、敢えて利用者が分かりにくい仕組みにしているのかと思う自治体もある。ホームページの分かりやすさを生かし、市民が最終的な評価にアクセスしやすい工夫をしてもらいたい。

最後に、口うるさく言い続けて、ようやく実質的に市議会議員がコンスタントに傍聴に来てくれるようになった。これは大きな進歩だと思う。

(4) 次回の日程

(事務局)

日程の前に、今後の予定について簡単に説明を行う。本日の委員会での意見を取りまとめ、事務局で答申案を作成する。それをもって、委員各位に最終確認を行い、市長への答申とする。

答申を踏まえ、市長、副市長、教育長、部長級職員による経営者会議におい

* 遠大な事業や計画を始めるときには、まずは手近なところから着手するのがいいというたとえ。また、物事は言い出した者から始めよというたとえ。中国の史書「戦国策」に由来する故事成語。

て、最終判断を行い、議会への報告及び市民への公表を行うこととする。

次回の委員会では、先程説明した最終結果を報告するとともに、来年度の委員会で審議する事業抽出等を行いたい。日程は、令和4年1月若しくは2月に開催する予定である。改めて日程調整の連絡をさせていただく。

(5) その他

(事務局)

第5回委員会で事務事業評価の改善に向けた協議を行った際に、ロジックモデルを紹介し、各委員から意見を頂いた。今回の委員会において、更に詰めた話をしようかと内部協議を行ったが、前回の内容の繰り返しになってもいけないということで、取りやめた状況である。

まずは、市役所内部における評価者研修会で、各委員から頂いた意見を踏まえた上で、職員にロジックモデルの手法を周知したく考えている。その結果等の報告も含め、次回の委員会で再検討いただきたい。

(委員長)

次回の委員会となると、年明けの第7回になるだろう。委員の皆さん、よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、その取り扱いとしていただきたい。